

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

2009年度の学部カリキュラムの抜本的改革に向けて、社会学部の全教員・全職員は、日々、検討だけでなく、その実施に向けての具体的活動に積極的に取り組んでいる。同時に、現在、2007年度以前の社会福祉学入学生には、それ以前のカリキュラムの継続を保障している。社会学科では、グローバル化や高度情報化という社会の変化に対応して、2009年度より、従来の5コース制を廃止し、3系7領域の新しいカリキュラムを構築をする。新しいカリキュラムでは、これまでの総合教育科目と専門教育科目の連関をさらに一歩進めることによって、この分類を廃止し、学部の中核となる講義科目（B群（選択必修）科目）を、メディア・表象系、社会・共生系、人間・心理系の3系に分類して、さらにメディア・表象系はメディア領域、社会表象領域に、社会・共生系はグローバル社会領域、現代社会学領域、ソーシャルネットワーク領域に、人間・心理系は臨床社会領域、社会心理領域に細分化する。これによって、社会学を核としつつ、隣接領域やこれまでの教養教育科目の一部も含んだ幅広い領域がカバーされる。それと同時に、A群（必修）科目として、1年次にアカデミック・プレパレーション科目（基礎演習、社会学リレー講義）、2年次にインターメディアイト・スタディ科目（インターメディアイト演習）、3・4年次にアドバンスト・リサーチ科目（研究演習）を設け、段階的に学習レベルが上がっていくように配慮するとともに、4年間を通した少人数教育を確保し、大きく幅の広がった学習領域のなかで、学生が一貫した学習ができるように配慮している。外国語教育については、2009年度よりスペイン語を導入し、併せて必修単位を8単位とする。「社会調査士」の教育も、より実際的な調査を行える能力をつけさせ、さらに「専門社会調査士」にステップアップできる基礎を体得させる教育内容を鋭意、検討し、実践している。進級時の適切な指導も、1年次の教育課程説明の強化をすでに図っていると同時に、上記改革では、社会学総体の基礎力を学んだ上で、将来の就職、進学、ベンチャーなどの独立というそれぞれの希望進路に合わせて、専門的な領域がより適切に、学生自身が自主的に選択し、深めていけるようになる。

学内第三者評価

2009年度から3系7領域の新しいカリキュラムを構築することとして、現在準備中である。グローバル化や高度情報化に対応すること、総合教育科目と専門教育科目の連関を進め、この分類を廃止すること、各年次に演習科目を設け、4年間を通した少人数教育を確保することなど、方針が明確に示されている。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
新カリキュラムには、学部4年間の教育を総合的にとらえて「学士力」を身につけさせるための努力が払われていると認められる。学生への履修指導も改善されている。
2008年度の評価対象ではないかもしれないが、2003年度に設定した目標が明快で具体的であり、その後の展開も着実であることから、普段から学部全体で高い意識をもってカリキュラム編成にあたっていると認められる。